

ケータイ・スマホ利用のライフスタイル研究（2）

デマンド交通意向者のライフスタイル特性

○水野 一成（NTTドコモ モバイル社会研究所），飽戸 弘（東京大学名誉教授）

キーワード：デマンド交通，ライフスタイル，ICT，スマートフォン

1. 研究背景

デマンド交通が近年急速に拡大を見せているが、利用者は限られていており、既存交通（車・鉄道・路線バス）に代わる存在までには至っていない。実際の利用では、高齢層が主であるため、電話での予約が多い。スマートフォンなどでより簡単に利用ができれば、デマンド交通はさらに多くの人が利用するのではないかと考え、調査・研究することとした。

本稿では、2019年に実施した調査を元に、デマンド交通に意向を示した人の特性をライフスタイル中心に分析し特性を明らかにすることで、今後の普及を考察する。

2. 調査概要

調査時期：2019年2月 対象：全国 15-79歳

割付：5歳刻み、性別、エリア、都市区分

調査方法：web

3. 分析の手法・結果

目的変数を「デマンド交通への意向」、説明変数をライフスタイル、ICT利用状況、属性等16とし、数量化理論第Ⅱ類を用い分析を実施する。

なお、交通に関わる研究は、「車への愛着」と大きく関係していることが推測されるため、車への愛着と「デマンド交通への意向」をクロスさせた4つの群（図1）を目的変数とした数とした。



図1 目的変数

分析の結果、図2の判別グラフが示す通り、1軸は1・3群と2・4群が分かれており、「車の愛着」の有無が関係していそうである。次に2軸は2群と3群が離れており、「デマンド交通の意向」の有無に関係している可能性がある。

それでは、図3のカテゴリースコアを見ながら、結果を見ていく。1軸で偏相関係数が高い、説明変数は「人との交流の有無」が上位に見られる。車への愛着

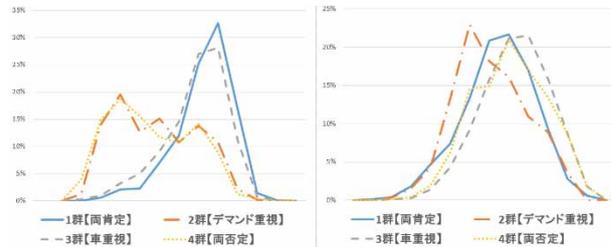


図2 判別グラフ

がある層ほど現在人との交流が活発であり、さらに車が使えなくなった時に人との交流が減ると考える傾向が見られた。

2軸においても、現在の人との交流が最も高い関係であり、デマンド意向のある2群が現在の人との交流が積極的である。

1軸、2軸とも「都市規模」や「経済的ゆとり」とは相関は見られない結果であった。

アイテム名	カテゴリ名	偏相関係数	カテゴリースコア1軸	偏相関係数	カテゴリースコア2軸
車起因の人との交流の変化	減る 多少減る あまり変わらない 変わらない	0.26	[Bar chart]	0.07	[Bar chart]
現在の主な移動手段	鉄道 バス 自転車 徒歩のみ	0.23	[Bar chart]	0.16	[Bar chart]
現在の人との交流	積極的 やや積極的 普通 あまり積極的でない 積極的でない	0.10	[Bar chart]	0.09	[Bar chart]
共感性(相手の気持ち)	ある ある程度 あまりない	0.07	[Bar chart]	0.09	[Bar chart]
性別	男 女	0.07	[Bar chart]	0.03	[Bar chart]
健康への満足	満足 やや満足 あまり満足していない 満足していない	0.07	[Bar chart]	0.03	[Bar chart]
車起因の買い物の変化	減る 多少減る あまり変わらない 変わらない	0.07	[Bar chart]	0.04	[Bar chart]
年代	10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代	0.07	[Bar chart]	0.04	[Bar chart]

図3 カテゴリースコア（偏相関係数が高い説明変数）

4. 考察

今回の結果より、デマンド交通や車との愛着と人との交流に深い関係があることが示唆された。現在利用している移動方法が使えなくなった時、人との交流が消極的になってしまう可能性がある。

また、デマンド交通への意向と「年代」「都市規模」とはあまり関係が見られなかったことから、利用方法が簡単（スマホなどで申込等）になれば、若年層や都市部でも広がりを見せるのではないだろうか。